

第2回 徳島市新体育館整備検討会議 会議録

日 時 平成30年10月3日（水）午前10時～午前11時30分

場 所 徳島市役所8階 庁議室

出席者 14名（委員8名、石井教育長、山尾教育次長、事務局4名）

傍聴者 なし

1 開会

（冒頭、事務局より分木委員の欠席を報告）

2 議事

(1) 競技団体へのアンケート調査の結果報告について

会長：

議題(1)の「競技団体へのアンケート調査の結果報告について」事務局からの説明をお願いします。

事務局：

資料1 競技団体へのアンケート調査の結果報告について説明

会長：

今の報告について、何か質問、意見はあるか。

A委員：

トイレ・授乳室の数で、トイレは最低4箇所（男女別、障害者用）、メインの入口あたりに4箇所とあるが、休憩の場合には一斉に行くことになり、女性のほうが大変長く並んでいる。どこに行ってもそうであり、面積等をみると男子トイレと女子トイレが同じぐらいしか取っていない。そうすると女子トイレは時間がかかり、便器数も少ないのでそのことを考慮して設置しないといけない。この前テレビでも取り上げられていたが、女子トイレはどこに行っても並んでいると。トイレの数が同じでも男性は早いらしいが、女性は化粧等の時間が必要であると。現状は、男子トイレは場所を取らないのでたくさんあり、女性トイレは場所を取るから少ないため、その点を考慮しなければいけない。

あと質問だが、3ページの控室と会議室で、だぶっている室もあるようだが別々に必要なものなのか。ここもよく検討して、両方併用できるような考え方でお願いしたい。

B委員：

今年の6月に全国の障害者の大会があり高崎アリーナに行った。6,000人入れる非常に立派な体育館で、大会は1階であり、休み時間にトイレに行くといっぱいであった。新しい施設なので事務の方に質問をしたところ、2階は観客席があるのでトイレ数は多く、1階は選手と役員とが使うだけのトイレ数を設置しているとのことであった。2階に行くには96人乗りのエレベーターが1機あった。コンサートでも1階でするとすれば、トイレをどのように配置すればよいか、非常に難しい問題ではある。そうすると1階で会議をした場合は非常に困ることになる。会場で館内放送がなかったため、徳島県の関係者にそのことを触れて回った。

A委員：

トイレを4箇所、1階と2階に造った時、トイレに入った場合に表示できるように。最近であれば空き状態を表示できるらしく、枠の中に並んでいれば待ち時間なども表示することができるため、案内がなくても見ればわかり、そのような方法も考えてもらいたい。デパートではあるらしいが、体育施設では調べていないのでわからない。選手や観客のためには造ったほうが非常にいいと思う。

会長：

3ページの控室と会議室を分けているのは、どのように考えているのか。

事務局：

アンケート調査の項目上、控室と会議室を分けている。競技審判や競技役員用のミーティングなどに使用するのが控室で、体育館を利用しない方でも自由に使用したり、競技前の監督主将会議など多くの人数で使用するのが会議室と分けさせてもらった。

A委員：

控室と会議室に100名程度の会議ができる広さとあるので、別々に作る必要があるのかと思い、またパーテーションで区切れば併用できると思うので、できるだけコンパクトにお願いしたい。

C委員：

会議室は絶対必要との思いがある。私はミニバスケットボールに携わっているが、色々な各種大会、バスケットボールに限らずバレーボールでもバドミントンでも大会がある。ある程度、県レベルの大会になると代表者や監督を集めた会議を必ず実施しなければならないが、現状で市立体育館ではその場所がなく、別棟の事務所の2階で、30人か40人かしか入らないと思うが、そこでした記憶がある。鳴門県民体育館に行くと2階に広い会議室がある。あのような会議室が1つあればパーテーションで区切るなどして、大きな大会の時には兼ねて控室に使える可能性もあるし、流用できるような設備にして、100人以上の会議室が全国大会や中四国大会には必須ではないかという考えである。

会長：

監督会議ではどれぐらい集まるのか。

C委員：

延べで100名くらいである。大会の抽選会などには子供たちやチーム代表者が来るので、今は狭い場所では子供は入れない対応をしている。スペースがあれば全員入れるので、広さを確保して区切れるようにしておけば使い回しができると思う。

副会長：

体育館の規模を決めないと、どうにもならないのでは。まず第一番に体育館の規模を決めると、おのずから今の体育館より大きいのを造るのか、もっと小さいのを造るのかで会議室の広さなどが決まってくる。とにかく規模を決めてから進めるべきと思う。

会長：

体育館の大きさを決めて、どういう規模の大会をするかということか。

副会長：

2000人収容にするのか、またバスケットボールのコートが4面取れるようにするのか、現状のように2面しか取れないようなもので満足するのか。それを決めて進めて行くべきと

思う。そうでなければ進まない。

会長：

他になければ議題2の説明を行い、その後また意見を伺うことにする。

(2) 先進地視察の報告について

会長：

つぎに議題(2)の「先進地視察の報告について」事務局からの説明をお願いします。

事務局：

資料2 先進地視察の報告について説明

会長：

今の報告について、何か質問等はあるか。

副会長：

総事業費が149億円だが、この内訳はどうか。要するにメインアリーナ、サブアリーナ、プール、その他の土地代などの事業費の内訳がないと論議できない。

事務局：

細かいところまでは把握しきれていない。大きな整備、駐車場の舗装など全体で149億円としか把握していない。

副会長：

土地は購入したのか。

事務局：

土地については元々県の土地であり、メッセウイング・みえという施設が最初に建っており、そこは三重県の産業施設センターとして県が所有していたが、その後、平成26年に県から津市に土地も含めて無償譲渡されている。

副会長：

土地代を除いた建物だけということか。プールでいくらかかったとかはわからないのか。

事務局：

もう一度確認しておきます。

副会長：

それが大事である。プールがいくらかで体育館がいくらかと。そうでなければ話が進まないのではないか。

会長：

そのあたりを問い合わせしてもらえるか。

事務局：

また、問い合わせしておきます。

A委員：

三重県の場合は場所が非常に広いと感じられるが、これくらいの敷地を取るのは徳島市の場合には非常に難しいと思うし、予算面においても難しいと思う。三重県の場合は合併特例債が120億円あったということだが、徳島市の場合にはそのような予算措置がないと思う。場所については、前回東工業跡地や公園跡地の案が出ていたが、結局その中で造るのであれば、どれくらいコンパクトな施設にしていくかを定める必要がある。類似の都市であればこのく

らしい予算でこれくらいの規模にしたいと。1箇所しか調べていないが、全体を考えた場合に対象になるのかどうか。それと駐車場が1,800台以上あるが、徳島市の場合は市内周辺で考えればとても取れないと思う。そこを事務局がどう考えるのか聞きたい。類似都市なので、これと同じ施設を造りたいのかどうか。造りたいのであれば、予算措置の問題とかを考えているのかどうか聞きたい。

会長：

今、私たちが進めているものと、予算面や規模的にもかけ離れているのではないかとの意見だが、ここに視察に行ったのはどのような理由なのか。国体やインターハイで使う施設なので、1つのモデルとして行ったのか。

事務局：

距離が近い類似都市であり、数を行くのではなく、その施設の良い点や問題点を参考にするために行ったもので、そこに合わすというのではない。

会長：

予算規模とかではないということか。

事務局：

どういう方向にとの意見を頂きたいので、市としてこのくらいの規模がほしいとか、国体の規模を目指すのか、もっとコンパクトのほうが市民向けでいいのかなど、現状把握の1モデルとして視察に行き、参考に出させてもらった。類似都市の規模としてはいくつか資料として揃えているが、市として方向性を決めてしまうのはどうかと。この検討会議で考え方を示して頂きたい。

会長：

近い類似都市ということで視察に行き、これを目指すのではなく、参考にすべきものについて意見を伺い、1月の案の参考にするということである。

事務局：

先ほどの土地の取得の件で、無償譲渡もあるのですが、駐車場の一部に私有地が入っているので、その分は用地取得費として計上している。

副会長：

それは事業費に入っていないのか。

事務局：

入っています。用地取得にかかったのは5億6千万円くらいです。

副会長：

徳島市としてはいくらまで耐えられるのか。これを聞かないと実際論議できない。100億までなんとかするとか。そうしないと単なる机上の話になる可能性がある。

教育長：

そもそも、このモデル案を出させて頂いたのは、最近新しく造った体育館で、先ほど島田委員もトイレの待ち時間の表示のことを話していたが、新しい体育館ほど利便性や障害のある方に対しても、いろいろな面で対応している部分が多い点を参考に学ばせて頂き応用できればと思う。

最初から土地の広さや経費などの枠を決めるよりは、徳島市としてこういう規模の体育館が必要との提案を頂きながら、だんだんと詰めていきたいと思う。例えば、最初に何億とい

う数字があつて、そこに当て込んでいくよりは、いろいろと案を出して頂いた中でどれくらい出せるかという部分もあり、教育委員会だけの判断も難しいので、市民や委員から、このような規模の体育館の要望が出ているということ、すり合わせしながら同時進行でやっていく形になる。最初からこれくらいの枠のお金がありますとは言えない状況である。

会長：

津市の近郊や三重県内で、この規模の体育館はあるのか。

事務局：

確認して後日報告します。

B委員：

三重県の場合には、屋内プールや武道館も併設しての話である。今回私たちが進めていくのは体育館だけを建てることではないのか。149億円の内訳も、それであればプールや武道館を除いて考えなければいけない。お金のことは後からということで、おそらくそうだと思う。まずいろいろなことを見定めて、同時進行になると思うが、この場合プールが入っている149億円は参考にならないのではないのか。

D委員：

視察に行ったサオリーナは、吉田沙保里さんがメディアでも発しているような凄く先進的な施設だが、津市の駅前になるのか。少し離れた郊外になるのか。

事務局：

津市の駅前からバスで20分か25分くらいかかります。

D委員：

そうすると予算とかは後からになると思う。この前の1回目の会合で、動物園跡地にするか東工業高校跡地にするかの課題がたくさんあったように思うが、今行政のほうはどのような克服というか、例えば東工業高校跡地であれば県有地に隣接していると聞いたが、県との交渉が進んでいるのか。それから昔、東署（中央署）が行くとなった時に、土地が軟弱で拠点になり得ないということでボツになったと地域の方から聞いたこともあるし、法的な制約の条件とかで、北側のマンションへの日陰規制とか、駐車場のとり方、体育館を取り巻く環境があると思う。高速はもう出来て沖洲にはインターチェンジがあつて、津田・沖洲に続いていき、2020年には防災拠点になるので、県のほうで急いでいると聞いた。どのような感じで進んでいるのか。

施設や機能、スペースはアンケートでも出てくるように、それぞれの競技がそれぞれの立場で、精一杯のことはしてほしいという思いがあると思う。1回目の会合以降も新聞の投書にあつたり、市民の意見を広く聞いてほしいとか、多機能の設備を備えた体育館を使っていきたいとの意見があつたと思う。事務局のほうで、課題はあれからどのような感じで進んでいるのか。

事務局：

今の2箇所の土地については前回説明させて頂いたように、県有地と市有地が絡んでいる部分があり、市単独ではあれだけの面積がないので、どちらにしても県とは話していかないとは思っている。具体的に方向性が出ていないので、まだ県とは交渉していない。

これからの流れとしては、まずこの検討会議で考え方として、全国大会を誘致するのか、プロスポーツを観る観点から考えるのかなどの規模を検討頂き、市民の意見も聞きながら、

ただ端的には市として進めたくないの、皆さんのいろいろな意見を取りまとめて、考え方を決めて、来年度以降にそれをもとに細かな計画を決めていかなければいけないと思っている。ただ、土地の交渉等で県がどこまで市に協力してくれるか、今のところ複合施設でなく体育館だけで考えるスタンスだが、実際、県から武道館について徳島市はどう考えているのかとの問い合わせがある。しかし武道館も一緒にとの話には今はなっていない。

事務局としては、体育館の考え方として、これまでの陳情や競技団体からの全国大会規模を考えてほしいという意見については尊重しつつも、後の運営管理面に対する課題もあり、今と同じくらいのコンパクトにとの意見も尊重すべきと考えている。なお、最近県からVリーグとの契約の関係で、新体育館を考えるなら今よりは規模の大きいのをお願いしたいとの話はきている。今現在、県との話はそのくらいで、具体的には進んでいない。

E 委員：

中学校、高等学校が、中学校の場合は8ブロックに全国を分けて、8年後に四国（徳島）にという形でローテーションしている。多分高等学校は9ブロックかもわからない。中学校の場合、回ってくる何年前かに屋内競技と屋外競技をバランスよく分けている。必ず屋内の競技は何かは来ます。全部で15、16競技ありそれを4当分するので。武道は3県に、屋内競技は4県にばらし、鳴門か徳島市立体育館かで今までやってきた。徳島で無理な場合は鳴門が空くのを待っていた。ある競技で鳴門が終わった後で、次の競技も鳴門で行っていたため、非常に大会の期日が長くなったりしている。そのような中で全国大会になると、たくさんの観客席も必要である。

あと、日常の市民や県民が使うレベルの頻度のほうが圧倒的に多いため、その時にどれだけのものがあつたらいいのかのバランスである。私はサッカーが好きでよく県外まで観に行っていたが、スタンドを増設しても普段は使わないから閉めて1階だけにしている。4万人規模のスタンドを造ったところが、2万5千人もあれば十分との現状がある。今オリンピックでいろいろな施設を造っているが、多分オリンピックが終わったら、なかなか7分目くらいまで入ることはないと思う。世界大会でもやらない限りは、全日本の大会では大きい施設を満杯にすることはできないと思う。このようなのをどう考えていくかである。

徳島市の場合は、日常の県民、市民が使うのにふさわしい規模、交通の便あたりを考えないといけない。その中で一番もとになるのが、先ほど副会長が言ったお金の面であり、どれくらいの予算でやろうとしているのか、広さはどれくらいあればいいのか、これがはっきりしない限りは細部にわたっての検討は無理だと思う。必要なものを各競技ごとに積み上げていき、そこからまた削っていく作業をするのがよいのか。また先に総予算を決めた中で、それにふさわしいものを検討していくのがよいのか。どちらがよいかわからないが、個人的には先にある程度、予算規模があつてそれに合う内容を検討していくほうがよいと思っている。あまり大きいのを造りすぎると、メンテナンスとランニングコストが非常にかかるというのを自分の目で見てきている。

会長：

バスケットボールの場合は、メインで4面は取れたほうがよいのか。

E 委員：

全国的な大会となれば4面、偶数で4面とサブが2面の6面あると、全国大会がスムーズに開催できる。

会長：

鳴門は何面なのか。

E委員：

サブを入れたら4面である。

F委員：

できれば鳴門の規模があればありがたい。小さいとは思いますが、鳴門があつてよかつたと思う。先ほど話のあつたプールについて、造れば莫大なお金もかかるが、あつたほうがいいと思う。今は蔵本のプールしかないの、それも1つの案であると思うが、その後の維持費が大変だと思う。武道館はまた今後の話し合いとのことなので、複合でなくても今の現状のようなフロアー、観客席、会議室、控室がある形が一番オーソドックスで話がまとまりやすいと思う。

また、長年私も市内で暮らしているので、子供の頃よりこのあたりはいつも遊び場であり、動物園跡地もそうだが親しみやすい環境である。東工業高校跡地であれば、かなり東に行くことになり、利便性があるとしたらどの土地だろうか。市が広い土地を必要なら新たな土地売買が必要なのか。市の所有のまとまった土地とはどこなのか見当もつかない。津市のような大規模な体育館を造るとすれば、市内でも限られてくるのではないかと思う。できれば利便性のいいところが市民としてはいいと思うし、その次に大きい小さいとなつてきても、お金の問題なので仕方がない。今までも全国大会はこの体育館しかないと工夫をしながらやってきた。折り合いをつけないといけませんが、要望としては大きな利便性の高いものをしていくべきである。山の上に広い土地があればよいが親しみにくいと思う。

C委員：

ミニバスケットボールに関しては、小学校レベルでは四国大会を市立体育館で行ったことはあるが、面数が足りないので以前は助任小学校の体育館を借りたりして、あと1面追加した記憶がある。小学校体育連盟の普通の児童が使うのであれば、今はメインフロアーでの体操発表会であり、今の広さでも十分可能である。施設面でいえば、その体操発表会だけで現状でも十分対応している。

まだまだ先の話になるが、箱が決まり部屋が決まってくると備品関係を考えなければならぬ。私の立場でいえば鉄棒の設置や跳び箱、マットとかを十分抽出したらいい気がする。今の市立体育館で借りている分だけでは十分に数が足りない場合があり、前日に役員が内町小学校に行き、大きなマットや跳び箱を抱えて市立体育館に持ち込み設置している状況である。倉庫の広さも確認し、時期が来たら抽出した備品や音響設備などの話し合いの場が持てればと思う。

D委員：

現在、サブアリーナの体操教室でお世話になっているが、下の子供さんを連れて移動する感じが多いので、キッズコーナーや幼児の頃からいろいろなものに親しめるような、また母親も助けられるような機能がぜひ必要だと思う。

B委員：

全国大会云々がよく出てきている。この議論から少し離れるが、そもそも行政の守備範囲として全国大会の施設を造るのは県なのか。それとも県都なのか。これ全国的にどうなのか。それからプールにしても、青少年センターのプールが県でもなくなり、今は県の屋内プー

ルは障害者プラザしかないと思う。もちろん蔵本のプールは、冬はちょっと無理なので。そのような設備で、全国大会で5,000人集める、3,000席以上とかの要望に対してどこが整備するのか。たまたま徳島市の施設が老朽化したから今建て替えるのだが、受け入れ先は全国的にみてどうなのか。

教育長：

都道府県によって事情は違うが、土地の形状や県都市の位置によって、松山であれば少し離れたところに坊ちゃんスタジアムや運動公園があり、高知もかなり離れた春野に運動施設を造っている。都道府県によって県都市との形が違うと思われる。

徳島市立体育館もちょうど40年になり老朽化が進んでいるが、今40万人くらいの方が利用しているので、市民の方の健康づくりを含めて必要な施設である。同じ場所で建て替えると2、3年かかるので、違う場所に市民の方に喜んで頂けるような施設、加えて大会等でも活用できるような施設ができればという思いをもって、今委員に意見をお伺いしているところである。最初から決めつけているのではなく、いろいろな意見を頂く中で集約しながら、よりたくさんの方々喜んで頂き、なおかつ予算的に可能なところを見つけていきたい。

B委員：

徳島市は音楽・芸術ホールという100億円前後のプロジェクトもあり、こうなると大変だなと。やはり行政の守備範囲で、これは県が本来的に構えるものですよと。徳島市であれば、市民のためにこれくらいのものでいいですよとか。そういう考え方があってもいいのではないかと。あまりにもお金がかかりすぎるので。要望をみるとすべて賄えればいいが、なかなかそれは難しいなど。

それからアクセスの面で、私は運転免許取ったのは59歳の時で、非常に不便であった。交通弱者である。交通弱者のために何がいいのかと、これまで考えてきた経緯がある。東京芸術劇場が池袋にあり、出た先に地下鉄の駅がある。それからJR池袋駅も歩いて5分くらいにある。そのような人のために公共交通機関で通えるような施設として考えるにあたり、駐車場が1,000台停まれるというのは不便なところにあるという象徴ではないかと。つい最近研修を受けに行くために、県の教育研修センターに行った。自宅から40分自動車がかかった。広い駐車場があり、山を切り開いたところに立派な施設があった。館内をずっと歩いてみたところほとんどが空き部屋であった。やはり30年先、50年先にどのようになるかを考えておかなければ大変だなと。

大きいのを造っても音楽・芸術ホールにしても、文化施設は赤字施設である。維持管理が大変である。それをどの程度で納めるかであり、競技団体の要望はあるが、税金を納めるほうとしては今後維持管理をどう抑えていくかと。これは委員が言っていたように、まさにそのとおりだと思う。

A委員：

今まで話を聞いていても、まだ方向性が漠然としている。方向性を決めるために津市にも視察に行っているのですが、そこを基本に3,000人くらいの客席とか、サブなら500人くらいとかの基本的なことを決めて、これくらいで全国大会できるならその方向で決めて、その後、大きさなどによって場所を選定、予算などの大枠を決めてだんだんと進めていかなければ、いろいろ意見を言っているのではまとまらない。

会長：

市にお願いとして、競技団体から出たものや委員からの意見、津市の事例等を踏まえて、これくらいの規模でどの基本的な構想を次回に出してもらい、それを基に委員から意見を頂く流れにしたいと思う。

副会長：

結論として今の体育館より大きいのを建てるべきか。小さいので我慢するのか。その辺を決めないと話が進まないと思う。

A委員：

基本的には全国大会をしたいので、大きくしたいということでよいか。今まで議論してきた中で大きいものを造りたいと。それなら建物がどのくらいの面積に入るかを考えなければならぬと思う。

会長：

そのあたりの案を事務局より出してもらえるか。それを踏まえて次回に意見を伺いたいと思う。

(3) 今後のスケジュールについて

会長：

議題(3)の「今後のスケジュールについて」事務局からの説明をお願いします。

事務局：

資料3 新体育館整備検討スケジュール（案）について説明

会長：

今の報告について、何か質問等はあるか。

委員：

(特になし)

(4) その他

会長：

議題(4)の「その他」について事務局から何かあるか。

事務局：

特にありません。

会長：

委員から何かあるか。

委員：

(特になし)

会長：

本日の議題はすべて終了したので、事務局へお返すする。

3 閉会

事務局：

第3回の検討会議については1月下旬頃を予定している。委員にはあらためて連絡する。以上をもって、第2回徳島市新体育館整備検討会議を終了する。